

広報すぎなみ

Suginami



みどり豊かな 住まいのみやこ

{ 6/15 }  
令和5年(2023年)  
No.2355

誰もが杉並の  
教育の当事者に。

全ての子どもたちが安心して学び、  
自分らしく過ごし、成長できる学校。  
そんな学校を目指して、学校現場に  
は教員だけではなく、さまざまな立  
場から学校を支える人がいます。今  
回は学校を支える人の中からお三方  
に登場いただき、それぞれの役割や  
現場の課題から学校を支えることへ  
の思いを伺いました。



特集

知っていますか？  
学校を支える私たち！

☎ 166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 | ☎ 3312-2111(代表) FAX 3312-9911(広報課直通) | 🌐 区ホームページ: <https://www.city.suginami.tokyo.jp/> | 📄 発行: 杉並区 | 📝 編集: 広報課



広報すぎなみは月2回(1・15日)発行。新聞折り込みでの配布のほか、区施設・区内各駅などの広報スタンドに置いています。  
入手が困難な方には個別配布をしています。ご希望の方は、電話・ファクス・Eメール・LoGoフォームからお申し込みください。

詳細は、区ホームページ  
(右2次元コード)を  
ご覧ください。





知っていますか?

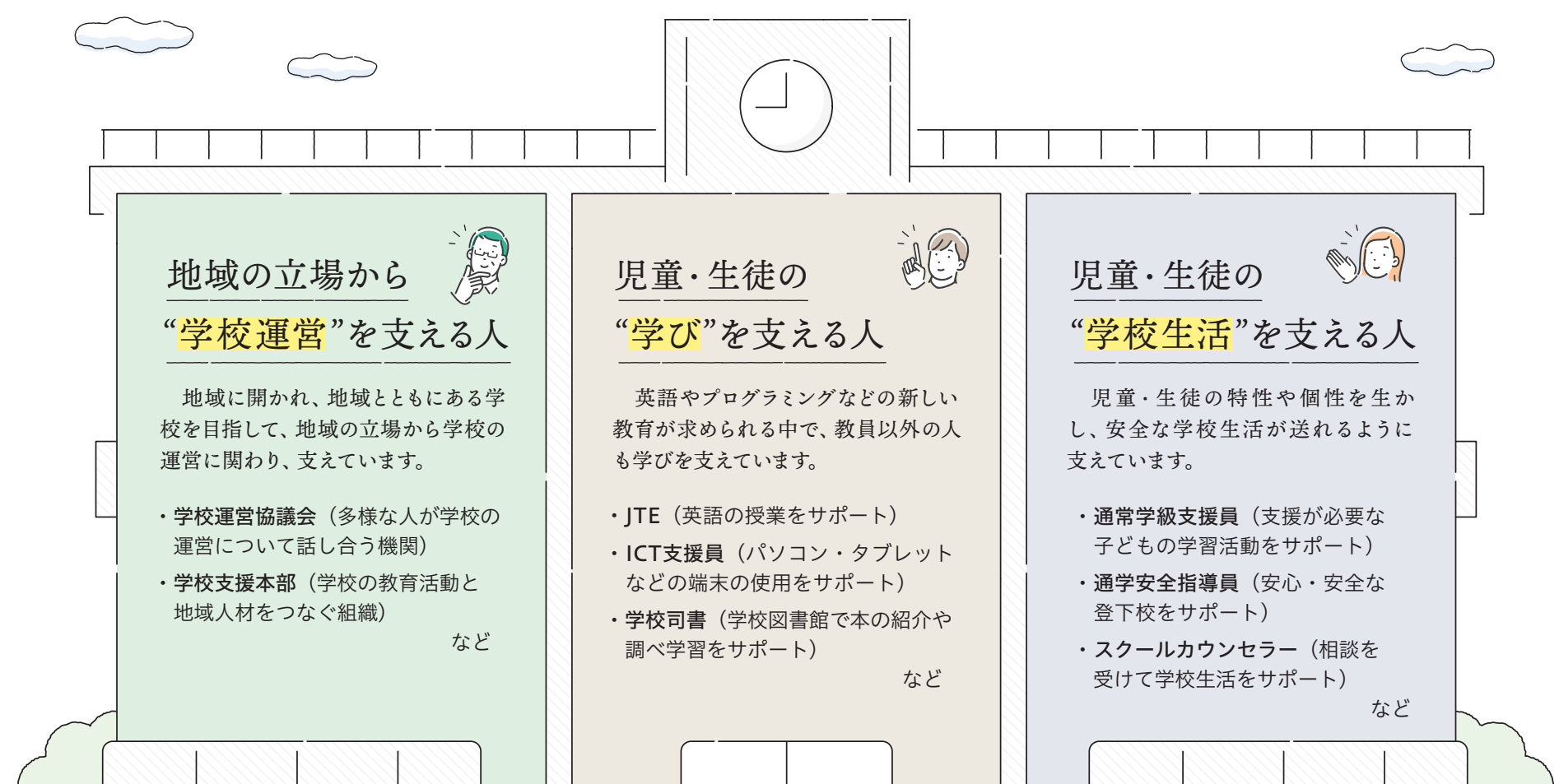
# 学校を支える私たち!



▲教育委員会ホームページ

社会の変化に伴い学校においても、外国語教育の充実やICTを活用した学習の推進など、学校教育のアップデートが進められています。「誰一人取り残さない教育」の実現や多様な課題に対応するため、学校現場には教員以外にもさまざまな立場から学校を支える人たちがいます。今号では、そんな学校を支える人たちをご紹介します。

—問い合わせは、教育委員会庶務課へ。



## “学校運営”を支える人、 学校運営協議会委員

今求められているのは、地域の力を学校運営に生かすこと。地域の立場だからこそできる対応を重ねていきたい。

—学校運営に関わり始めたきっかけは何ですか？

私と息子2人は方南小学校出身で、子どものサッカーサークルに長く関わる中で、方南小学校に学校支援本部が立ち上がるときに、当時の校長先生から声をかけてもらい参加することになりました。支援本部の基盤ができた頃に、学校運営協議会からも要請があり、今は委員としても参画しています。

—学校現場における今の課題をどう捉えていますか？

課題はその時々で変化してきましたが、ここ数年の大きな課題の一つは、やはり新型コロナの対応。密を避けながら子どもたちとの関係をどう築いていく



子どもたちから  
団長！と声をかけられるとうれしいです。

大嶋 正人

のか、先生も私たちも悩みつつ、新たなイベントを開催するなどいろいろと挑戦してきました。また、学校での働き方改革が推進され、先生の負担を減らすために、学校だけでは対応が難しいことに地域の力を生かしていくことも一層必要とされています。

—子どもたちと向き合う中で大切にしているのはどのようなことですか？

子どもたちは、何かを認められることで自己肯定感を育てていきます。一人一人が、その子ならではの得意なことや頑張れることで誰かに認められる。そんな場をたくさんつくっていきたく、そういった細やかな対応は地域の立場だからこそできると思うのです。支援本部創設当時の小学生が大人になり、一緒に学校をサポートしてくれるようになってきました。サポートを経て教員になった子もいて、支援が循環されるようになってきたことがとてもうれしいです。

—今後の学校への支援についてお聞かせください。

支援を持続していくためには、多くの人の力が必要です。ですから、今まで以上に地域の方が学校に参加しやすい環境づくりに取り組んでいきたいです。地域の子どものため、学校のために何か力になりたいと考えている人は、ぜひ学校の「応援団」として学校運営に参加してみてください。

## “学び”を支える人、 JTE（日本人英語指導助手）

英語力にかかわらず、どの子にとっても楽しく、「身に付いた!」と手応えを感じられる授業を目指したいです。

—JTEとはどのような役割の仕事ですか？

英語の授業において、担任などの教員と協力し、英会話の練習相手になったり発話を促したりするなど、さまざまな形で子どもたちの学習をサポートします。英語で重視されるのは、読み書き以上にコミュニケーション。会話を通して英語に親しんでもらうことを目指しています。

—英語学習のサポートで大切にしているのはどのようなことですか？

授業中はとにかく基礎力の向上を図ること。休み時間など授業外の時間は、できる限り子どもたちの興味のあることに応えようと心がけています。



成長していく子どもたちからエネルギーをもらっています。

福田 弥恵

例えば、自分の服に書かれた英語の意味を聞かれたときは訳してあげるととても喜ぶ。何げない小さなコミュニケーションの積み重ねを大切にしています。

—JTEになったきっかけ、現場での手応えや課題などを教えてください。

以前は民間団体に勤めていたのですが、退職してセカンドキャリアを考える中で、得意な英語を生かして何かできないかと考えていたときに、すぎなみ地域大学の「日本人英語指導助手養成講座」の案内を見かけて受講を決めました。活動の中で、子どもたちの学習への気持ちが前向きに動く瞬間を目の当たりにすると、本当にうれしいです。一方で、子どもによって既に英語力に大きな差が生まれていることは、課題の一つだと感じています。どの子にとっても「身に付いた!」と手応えを感じられる授業を目指したいです。

—キャリアの場を民間団体から学校に移して感じるのはどんなことですか？

私が教えているようで、実は子どもたちに多くのことを教えてもらう、とてもやりがいのある現場です。多様なキャリアを持つ大人が学校にいることは、子どもが将来に向けて多様な視点を持つきっかけにもなるのではないのでしょうか。地域のさまざまな人が、学校に興味を持ってくれるといいなと思います。

## “学校生活”を支える人、 通常学級支援員

大切なのは、先生と子どもの関係がしっかりと築かれること。支援の加減を考えながら、適切なサポートを心がけています。

—通常学級支援員になることを目指した経緯をお聞かせください。

昔から教員になることが夢で、教員免許も取りましたが教壇に立つことはなく、地元の杉並で自営業を営んできました。そんな背景と生まれ育ったまちへの愛着もあり、方南小学校の通常学級支援員となりました。

—通常学級支援員とはどのようなサポートをする仕事ですか？

通常学級支援員の役割は子どもの安全を支え、学習活動をサポートすること。担当学年の教室が見える場所に控え、支援が必要だと感じたときにサポートに入ります。このサポートの加減がとても難しく、どこまで子どもに手を差し伸べるべきか、いつも様子を見ながら考えています。支援員になって間もない頃、先生に「子どもの経験を奪わないでほしい」と言われ、そのときは本当にハッとしました。大切なのは先生と子どもの関係がしっかりと築かれること。私はその関係を築くため、先生と連携して動くことを心がけています。

—どのようなときに支援員としてのやりがいや喜びを感じますか？

今の担当学年はちょうど僕の孫と同じ年で、日々接しているだけで本当に元気をもらっています。朝は登校の様子を見ながら、元気がない子がいないかなど見守っています。下校時に「さようならー!」と元気に帰っていく姿を見送

る時間は、何よりうれしい瞬間です。

—子どもたちと向き合う中で大切にしているのはどのようなことですか？

今の時代、たくさんモノが豊かになっている一方で、子どもたちは寂しさも抱えていると感じる瞬間があります。ぎゅっと触れ合うような温かみを実感しにくいかもしれません。だからこそ、僕は子どもたちの前では怒らず、たくさん笑って過ごそうと思っています。子どもはいろんな大人と関わり、助けてもらう経験を通して世界を広げていきます。その「いろんな大人」の一人として素のままの自分で、今後も子どもたちと向き合っていきたいです。

一日を終えて元気に帰っていく子どもたちを見ると安心します。



長谷川 豊

### 校長からのメッセージ

教員だけでできることは限られています。地域をはじめとして、たくさんの方から支援を受け、子どもたちは日々成長しています。

方南小学校校長・堅山浩人

もっと知りたい! 紙面に掲載しきれなかった内容などを区ホームページで紹介しています。



学校運営協議会委員を募集します。詳細は 6面へ